

# 平成28年度 第30回 東海高等学校バスケットボール新人大会

男子準決勝

試合日: 2017年2月12日(日)  
会場: 県立ゆめドームうえの  
コート: 2A  
開始時間: 11:10~

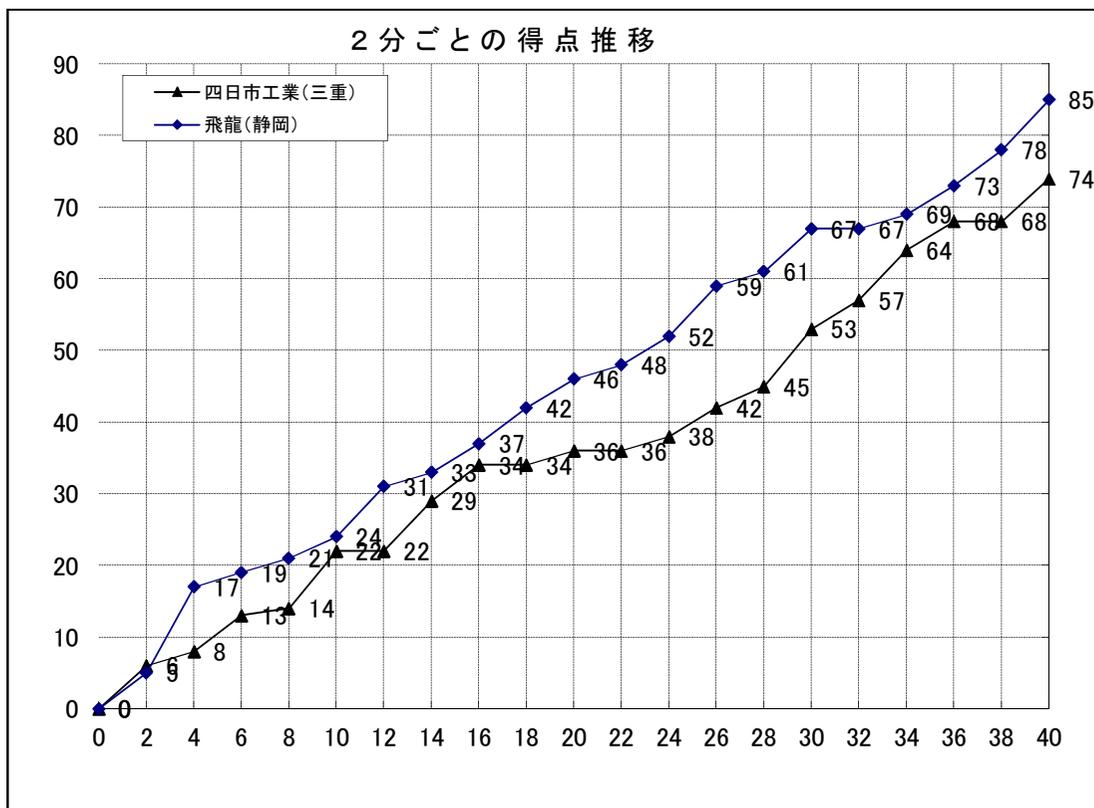
Team A		Team B
県立 四日市工業 (三重)	74	85 飛龍 (静岡)
	22 - 24	
	14 - 22	
	17 - 21	
	21 - 18	
	-	

Team A: 四日市工業(三重)

No.	S	選手名	PTS	3P	2P	FT	F	REBOUND			AS	ST	BS	TO	PT
								OR	DR	TOT					
4	*	伊藤 佑一郎	13	1	3	4	3								
5	*	山原 誠也	7		2	3	2								
6		前田 凌玖	2		1										
7	*	野田 憲吾	16		8		4								
8		小村 和馬													
9		倉木 将太	5		2	1									
10		森 健志郎													
11	*	西田 航	4		2		4								
12		中村 憲真													
13	*	水谷 祐葵	27	2	8	5	3								
14		三谷 啓吾													
15		吉門 広晶	0				2								
16		小村 将貴													
17		浜地 航汰													
18		天野 夏暉													
Team/Coach:															
合計			74	3	26	13	18	0	0	0	0	0	0	0	

Team B: 飛龍(静岡)

No.	S	選手名	PTS	3P	2P	FT	F	REBOUND			AS	ST	BS	TO	PT
								OR	DR	TOT					
4	*	伊東 潤司	23	5	4		1								
5	*	松下 裕汰	4		2		5								
6	*	金井 星也	3	1			5								
7		西尾 昂也													
8		長谷川 楓弥													
9	*	関屋 心	34	2	11	6	2								
10		曾我 真優													
11		杉本 諒	6		2	2									
12		山村 祥太郎	5	1	1		1								
13	*	杉山 裕介	10		5		5								
14		奥村 大翔													
15		張 述愷													
16		石川 歩													
17		牛島 宗揮													
18		原 千容													
Team/Coach:															
合計			85	9	25	8	19	0	0	0	0	0	0	0	



## 【戦評】

1Q. 序盤四日市工業はドライブを中心に得点を重ねる。飛龍もドライブと#4, #6などの3Pと多彩なオフェンスで反撃。22-24と飛龍が2点リードで終了。

2Q. 両チームともディフェンスを頑張る中、四日市工業は#13を中心に、飛龍はスクリーンを多用し得点を入れる。5分過ぎから四日市工業は飛龍の堅いディフェンスを崩せず、得点を奪えない。四日市工業がゾーンディフェンスに変えた後も、飛龍は#13を中心に得点を重ね、36-46と飛龍が10点差をつけて前半を終えた。

3Q. 四日市工業は、依然飛龍のディフェンスを崩せず点数がのびない。一方の飛龍は速いパス回しから得点を重ねる。四日市工業はオールコートゾーンプレスからの得点や#13の連続シュートを決め反撃するが、飛龍も#4の3Pで踏ん張り、53-67と飛龍のリードがやや広がる。

4Q. 四日市工業は#7, #13の1対1で連続得点。ゾーンディフェンスも効果的に決まり、残り4分には3点差まで差を縮める。しかし飛龍は、#4の3Pが決まり、落ち着きを取り戻す。再びディフェンスのプレッシャーを強め再び差を広げる。結局74-85と飛龍が逃げ切り、決勝戦へと駒を進めた。

主審	名越 龍男	第1副審	木下 晋一	第2副審	野々村 日希	記入者	西村 一真
----	-------	------	-------	------	--------	-----	-------

# 平成28年度 第30回 東海高等学校バスケットボール新人大会

## 男子準決勝

試合日：2017年2月12日(日)  
会場：県立ゆめドームうえの  
コート：2B  
開始時間：11:10~

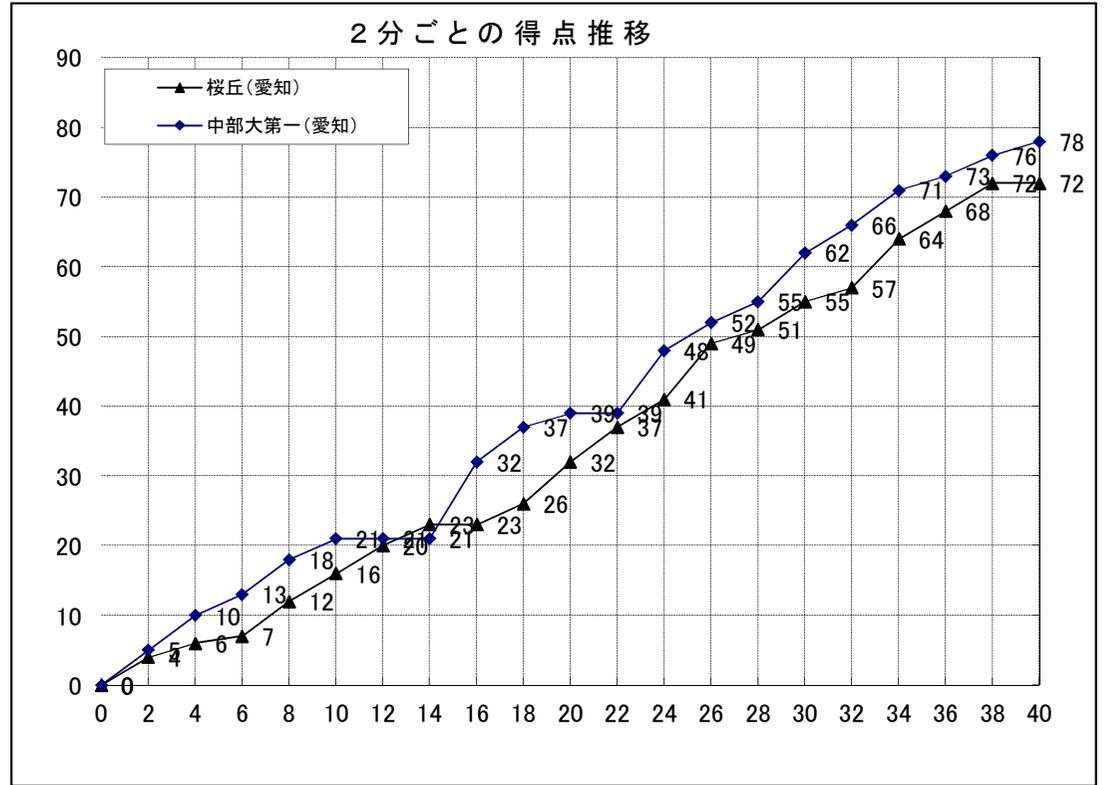
Team A		Team B
桜丘 (愛知)	72	78 中部大第一 (愛知)
	16 - 21 16 - 18 23 - 23 17 - 16 OT	

### Team A: 桜丘(愛知)

No.	S	選手名	PTS	3P	2P	FT	F	REBOUND			AS	ST	BS	TO	PT
								OR	DR	TOT					
4	*	佐々木 駿	0				1								
5		彦坂 海登													
6	*	今田 涼斗	19	2	6	1	3								
7	*	大井 崇幹	17	1	7		3								
8		中泉 智貴													
9	*	富永 啓生	22	5	1	5									
10	*	DIAGNE COULOU	10		5		4								
11		原田 昇明													
12		小山 時郎													
13		渡辺 薫													
14		高木 遼太郎													
15		小嶋 悠斗	4		2		3								
16		藤田 龍之介													
17		原田 宗輝													
18		大竹 敬也													
Team/Coach:															
合計			72	8	21	6	14	0	0	0	0	0	0	0	

### Team B: 中部大第一(愛知)

No.	S	選手名	PTS	3P	2P	FT	F	REBOUND			AS	ST	BS	TO	PT
								OR	DR	TOT					
4	*	星野 京介	14	4	1		2								
5	*	坂本 聖芽	37	6	8	3	4								
6		張本 正登	4		2		3								
7		田中 成紀	3	1											
8	*	Boubacar N' diaye	5		2	1									
9		根建 拓己													
10		植木 将太郎													
11		石川 稜祐													
12		大富 健清													
13		矢澤 樹	0				1								
14	*	中村 拓人	15		7	1	4								
15	*	小澤 幸平	0				2								
16		青木 遥平													
17		佐藤 優光													
18		三嶋 宏斗													
Team/Coach:															
合計			78	11	20	5	16	0	0	0	0	0	0	0	



### 【戦評】

桜丘④⑥⑦⑨⑩、中部大第一④⑤⑧⑭⑮でスタート。桜丘は2-3ゾーン、中部大第一はハーフマンツーマン。桜丘⑥のジャンパーで先制。中部大第一も④の3Pですぐ反撃する。出だし、中部大第一④⑤の1 on 1により中部大第一リードが進む。桜丘も⑨の3Pでついていく。中部大第一は相手チームファウルにより得たフリースローを決めきれず得点が伸び悩む。その間桜丘⑦のドライブ、ジャンパーで2点差までつめるが中部大第一⑤に3Pが決まり5点中部大第一リード1Q終了。

2Q、桜丘は連続得点ですぐさま1点差、そして⑩のリバウンドシュートでついに逆転。その間、中部大第一4分間無得点。しかし、そこから中部大第一④の3Pをかきわきりに⑤3Pなどで一挙連続16得点。最大14点差となったが、桜丘⑥⑦のジャンパーで差を引き戻し7点中部大第一リードで前半終了。

3Q、桜丘はアウトサイドが当たりだす。⑨の3本含む計4本を沈め一時逆転。しかし、中部大第一の⑤が今クォータのみで3P2本を含む18得点を量産し譲らない。一進一退を繰り返しながら点差はかわらず3Q終了。

4Q、互いに集中力が高まりディフェンスが締まる。中々得点が動かない時間帯が続く。その中桜丘⑩のジャンパーで1点差までつめる。しかし、逆転の一打がでない中、残り40秒、中部大第一⑭の華麗なユーロステップにより6点差とし、そのまま試合終了。両チームとも迫力あるオフェンスをみせる中、中部大第一が接戦をものした。

主審 角平 和優

第1副審 境 圭介

第2副審 大豆村 斉

記入者 中島 英之

# 平成28年度 第30回 東海高等学校バスケットボール新人大会

男子決勝

試合日: 2017年2月12日(日)  
 会場: 県立ゆめドームうえの  
 コート: 4A  
 開始時間: 14:30~

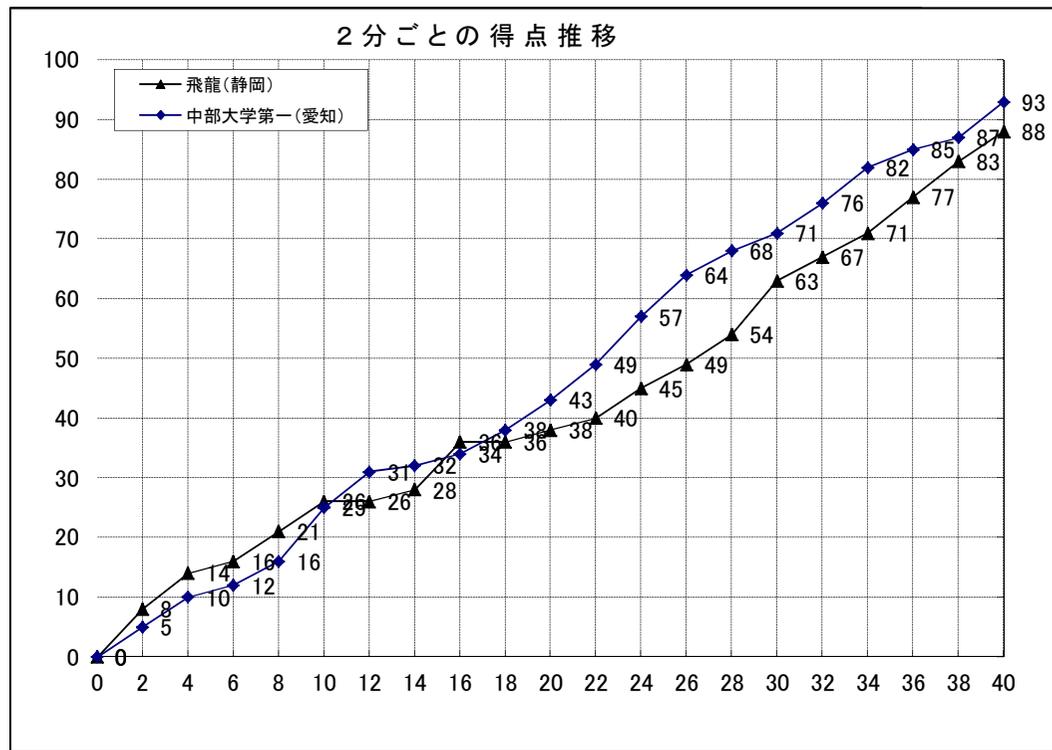
Team A		Team B
飛龍 (静岡)	88	93
	26 - 25	
	12 - 18	
	25 - 28	
	25 - 22	
	-	
		中部大学第一 (愛知)

Team A: 飛龍 (静岡)

No.	S	選手名	PTS	3P	2P	FT	F	REBOUND			AS	ST	BS	TO	PT
								OR	DR	TOT					
4	*	伊東 潤司	30	8	3		4								
5	*	松下 裕汰	16	2	4	2	2								
6	*	金井 星也	2		1										
7		西尾 昂也													
8		長谷川 楓弥													
9	*	関屋 心	6		3		3								
10		曾我 真優													
11		杉本 諒	2		1										
12		山村 祥太郎	13	3	1	2	2								
13	*	杉山 裕介	9	1	2	2	4								
14		奥村 大翔	10		5		3								
15		張 述愷													
16		石川 歩													
17		牛島 宗揮													
18		原 千容													
Team/Coach: 水谷 幸司															
合計			88	14	20	6	18	0	0	0	0	0	0	0	

Team B: 中部大学第一 (愛知)

No.	S	選手名	PTS	3P	2P	FT	F	REBOUND			AS	ST	BS	TO	PT
								OR	DR	TOT					
4	*	星野 京介	23	5	4		1								
5	*	坂本 聖芽	31	2	11	3									
6		張本 正登	8		4		1								
7		田中 成紀													
8	*	Boubacar N' dia ye	14		5	4	2								
9		根建 拓己													
10		植木 将太郎													
11		石川 稜祐													
12		大富 健清													
13		矢澤 樹	1			1									
14	*	中村 拓人	16		6	4	2								
15	*	小澤 幸平	0				1								
16		青木 遥平													
17		佐藤 優光													
18		三嶋 宏斗													
Team/Coach:															
合計			93	7	30	12	7	0	0	0	0	0	0	0	



## 【戦評】

1Q. 互いにハーフコートマンツーマンでスタート。先制は中部大 #5の3Pとなったが、飛龍 #6がすぐさまドライブで決め返す。両チームとも #4同士の3Pが確率よく決まり互いに譲らず26-25と飛龍1点のリードで終了。  
 2Q. 飛龍は1対1のドライブから合わせで得点を決めていく。中部大も #8のスクリーンや #14の1対1を中心に組み立てて試合を展開し、38-43と中部大がリードし、前半を終える。  
 3Q. スタートのメンバーは変わらず、ハーフコートマンツーマンで後半もスタートする。開始早々飛龍 #6が負傷退場、中部大は #8の高さを活かしたプレイを中心としてじわじわ点を離し始めるが、飛龍も #4, #12の連続3Pにより点差を縮め63-71と中部大に食らいつき3Qを終了。  
 4Q. 互いに譲らない攻防を見せるが残り6分で飛龍はオールコートでプレッシャーをかけ流れをつかみかけるが、中部大 #5の3Pなどで得点を重ねていき88-93で試合終了。中部大第一が優勝を飾った。

主審	山内 俊幸	第1副審	加藤 昌樹	第2副審	坂井 元直	記入者	芝野 博考
----	-------	------	-------	------	-------	-----	-------

# 平成28年度 第30回 東海高等学校バスケットボール新人大会

男子3位決定戦

試合日：2017年2月12日(日)  
会場：県立ゆめドームうえの  
コート：4B  
開始時間：14:30～

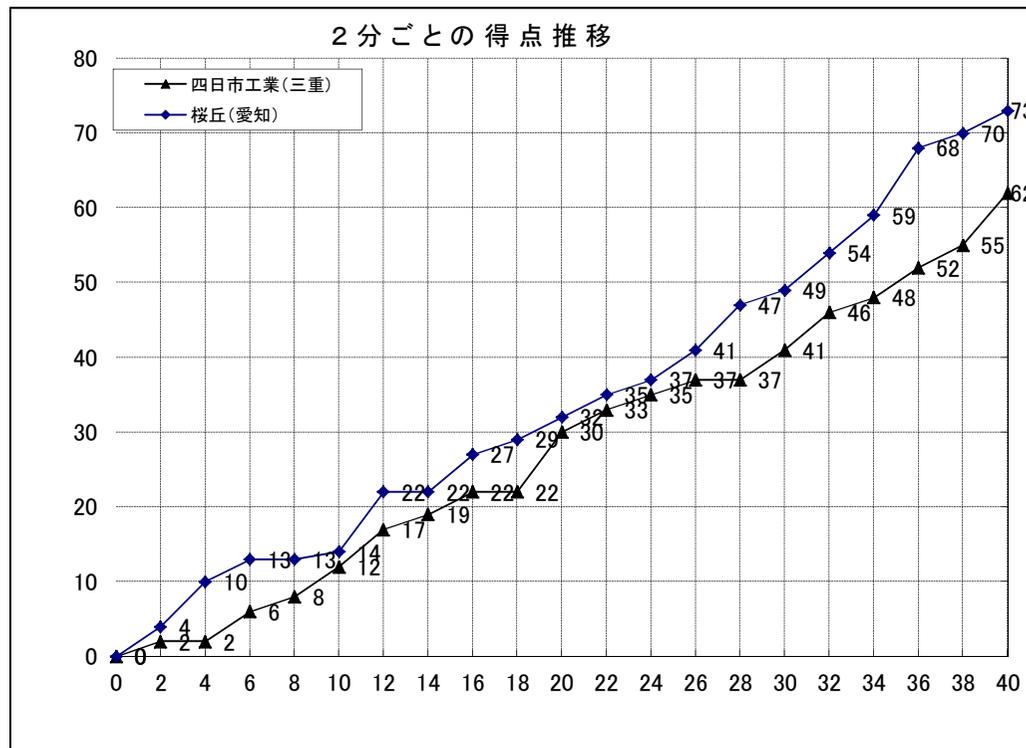
Team A		Team B	
四日市工業 (三重)	62	74	桜丘 (愛知)
	12 - 14 18 - 18 11 - 17 21 - 25 OT		

Team A: 四日市工業(三重)

No.	S	選手名	PTS	3P	2P	FT	F	REBOUND			AS	ST	BS	TO	PT
								OR	DR	TOT					
4	*	伊藤 佑一郎	3	1			3								
5	*	山原 誠也	6		2	2	4								
6		前田 凌玖	3	1											
7	*	野田 憲吾	18		7	4	4								
8		小村 和馬													
9		倉木 将太	4		2										
10		森 健志郎													
11	*	西田 航	4		2		3								
12		中村 憲真													
13	*	水谷 祐葵	18	1	7	1	2								
14		三谷 啓吾	2		1		1								
15		吉門 広晶	4		1	2	3								
16		小村 将貴													
17		浜地 航汰													
18		天野 夏暉													
Team/Coach:															
合計			62	3	22	9	20	0	0	0	0	0	0	0	0

Team B: 桜丘(愛知)

No.	S	選手名	PTS	3P	2P	FT	F	REBOUND			AS	ST	BS	TO	PT
								OR	DR	TOT					
4		佐々木 駿	2			2									
5	*	彦坂 海登	1			1	1								
6	*	今田 涼斗	1			1	1								
7	*	大井 崇幹	2		1		2								
8		中泉 智貴	0				3								
9	*	富永 啓生	40	9	6	1									
10	*	DIAGNE	13		4	5	1								
11		原田 昇明													
12		小山 時郎													
13		渡辺 薫													
14		高木 遼太郎													
15		小嶋 悠斗	7		2	3	3								
16		藤田 龍之介													
17		原田 宗輝													
18		大竹 敬也	8		4										
Team/Coach:															
合計			74	9	17	13	11	0	0	0	0	0	0	0	0



## 【戦評】

四日市工業④⑤⑦⑪⑬、桜丘⑤⑥⑦⑨⑩でスタート。四日市工業はオールコートマンツーマン、桜丘2-3ゾーン。桜丘⑩のフリースローで先制。その後も⑨の3Pで一歩抜け出す。対する四日市工業はゾーンディフェンスに苦しみリズムよくシュートを打てず決まらない。その中でも⑦のドライブ等であついていき、プザービーターで⑩がタップを決め点差を2点とし1Q終了。

2Q、四日市工業⑥の3Pで逆転。すかさず桜丘⑨が2本連続3Pで再度逆転。桜丘5点リードで点差が動かない。点を離したいところでターンオーバーが続く。四日市工業は、その隙に着実に点数を重ね残り15秒で⑦のドライブが決まりリードする。しかし、桜丘⑨がプザービーターで3Pを決め桜丘2点リードで前半終了。

3Q、四日市工業は桜丘のゾーンに対してリズムが作れない。対して桜丘は⑨の個人技が冴え、着実にリードを広げる。リバウンドシュートなどで四日市工業は粘り、10点差まで広げられるが一桁差で3Q終了。

4Q、四日市工業のディフェンスの足が止まりだす。桜丘は合わせのプレーで得点を伸ばしていく。追いつきたい四日市工業だがゾーンに対してリズムが作れない。連続して決めることができず徐々に離されていく。最後はしっかりリードを守った桜丘が勝利をおさめた。

主審 井出 啓太

第1副審 林 大貴

第2副審

記入者 中島 英之